

## B分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題「教育課程や学校経営に活かされる「学校評価」の在り方について」

～役割達成度評価と関連づけた取組を通して～

南那珂支会小学校B班

### 1 主題設定の理由

平成19年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、平成20年度から学校評価が始まった。平成22年3月には第三者評価も盛り込んだ「学校評価ガイドライン平成22年度版」が出され、現在ほどの学校も学校評価に取り組み、年度末には評価書を作成して教育委員会へ報告している。

一昨年度、日南市教頭会で実施した学校評価に関するアンケート調査によると、各学校で主に以下のような取組がなされていた。

- 項目については、学校の教育的課題と解決への重点方策に沿って作成している。
- 評価しにくい内容は「評価できない」という欄にチェックしてもらい、次年度以降のアンケート作成（尋ね方、内容の検討）に活かすようにしている。
- 集計結果一覧表に、本年度分だけでなく過去2年分も載せており、3カ年を比較して考えたり話し合ったりできるようにしている。
- 集計結果が分かりやすいように、質問、結果、グラフをセットにしてまとめ、考察を加えて、学校関係者評価委員や保護者に知らせるようにしている。

このように、各学校で多くの工夫がなされているものの、本来ならば、学校評価は次年度の教育課程に反映されるべきものであるが、多くの労力と時間を要する割には、教育課程や学校経営に活かされてい没有在の現状である。

そこで日南市支会小学校B班では、昨年度より主題を「教育課程や学校経営に活かされる「学校評価」の在り方について」、副題を「各学校の取組を通して」と設定し、前述した内容の中から特に「項目については、学校の教育的課題と解決への重点方策に沿って

作成している」という本校の実践事例を参考に、よりよい学校評価の在り方について研究を進めてきた。

その中で、「市内小・中学校の学校評価の現状や課題を明らかにすることができた。」という成果が得られた反面、「学校評価をより教育課程に生かしていくためにも、評価項目を焦点化したり、評価書を見やすく簡略化したりする必要があるのではないか。」という課題も残った。そこで本年度は、研究主題は昨年度に引き続き同じであるが、副題を「役割達成度評価と関連づけた取組を通して」と設定し研究を進めていくことにした。

### 2 研究のねらい

「学校評価」と「役割達成度評価」を関連づけ、学校経営に活かされる学校評価の在り方を明らかにする。

### 3 研究の概要

学校評価と役割達成度評価については、その年度の重点目標に向けての教育活動を実践し、それを評価して改善するという、学校教育の質の向上を目指す点で共通している。

#### 【学校評価の目的】

学校の目標達成に向けた組織的活動についての検証及び公表という評価活動を通して学校改善による教育の質の向上を目指すとともに、保護者や地域住民への説明責任を果たす。

#### 【役割達成度評価の目的】

学校の目標を受け、教職員一人一人が、各組織における自己の役割達成に向けた取組について、その達成状況を評価することをとおして、自己の役割の明確化とそれに伴う学校組織のパワーアップにより、学校教育の質の向上を目指す。

役割達成度評価における個人目標は、校長の学校経営ビジョンをもとに、自分の所属する分掌組織や教科、学年等との関わりにおいて設定することから、学校の目標や分掌組織の目標等と連動するものでなければならない。

そこで、目標設定ミーティングの前に、教職員が役割達成のための手段とゴールイメージについて記述していくが、その際ゴールイメージは学校評価と連動していくことを伝え、「可能な限り数値化すること」と「昨年度の学校評価の結果を踏まえ実現可能な目標にすること」に留意させる。

具体的には、研究主任の役割目標が『学力向上を目指した授業改善』であったので、手段ゴールイメージが『ICTの研修を通して、教師のICT活用能力の向上を図り、ICT活用指導力チェックリストにおいて、肯定的評価100%を目指す。』とした。また、学習部長の役割目標が『読書活動の充実』であったので、手段・ゴールイメージは『読書月間の設定や、図書司書との連携などを行うことで、読書の習慣化を図り、年間貸し出し冊数3000冊を目指す。』とした。※右図参照

なお、実際の目標設定ミーティングの際には、評価者が教職員に対して期待する役割や目標の内容を確認していくとともに、組織目標との整合性、役割期待との整合性、本人の能力や将来像との整合性などの観点からも確認をしていった。

また、中間ミーティングの際には、その時点でのゴールイメージ達成度の確認をするとともに、設定したゴールイメージで評価を図ることができるかどうかの確認を行い、必要に応じて修正を行っていった。

具体的には、体育主任の役割目標が『体力向上プランの実践を通じた体力向上』で、手段・ゴールイメージが『体育の時間以外に運動をしていると自己評価している児童の割合80%以上を目指す。』としていたが、『2回目の体力テスト(11月)で、県の課題項目が前回の記録より向上した児童が90%以上を目指す。』などである。

教職員との各ミーティングが終了する毎に、教頭は学校評価に関する設問項目を作成修正していくが、最終的には12月の学校評価を行い、次年度の教育課程の編成および学校経営ビジョンの策定へとつなげていく。

### 【役割達成度評価シート】

項目番号	担当業務	期待される役割と役割達成のための手段・ゴールイメージ	困難度
	学習関係(1) (研究主任)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■役割・目標 学力向上を目指した授業改善</li> <li>■手段・ゴールイメージ ICTの研修を通して、教師のICT活用能力の向上を図り、細田小のICT活用指導力チェックリストにおいて、肯定的評価100%を目指す。</li> </ul>	

反映・関連づけ

### 【学校評価アンケート設問】

対象	質問項目
学校	国語と算数のテスト平均正答率85%以上の結果
学校	ICT活用指導力チェックリストにおいて、肯定的評価100%
児童	学習指導要領における児童の肯定的評価80%以上
児童	先生の授業中の説明や問いかけはていねいで分かりやすい。
保護者	先生の授業中の説明や問いかけはていねいで分かりやすい。
学校	自学ノート等の家庭学習の充実に努めている。
児童	家庭学習の手引きを参考に家庭学習を行っている児童70%以上
保護者	おさんは、家庭での学習(低学年20~40分、中学年60~70分、高学年)
学校	読書活動の充実に努めている。
児童	学校図書館の年間貸し出し冊数3000冊以上

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- 役割達成度評価と学校評価を関連づけることは、教職員各自が学校経営に参画している意識を高める事につながっている。
- 前年度学校評価⇒改善案検討⇒目標設定⇒実行の流れの中で、計画的かつ効率的な学校評価サイクルの在り方を探ることができた。

### (2) 課題

- 改善案の妥当性を検証するために、年度途中での中間学校評価を取り入れたほうがよい。その際には、Web上でのアンケートフォームなどのICT機器を活用する等、より効率的な方法で行う必要がある。
- 学校評価の一部は、役割達成度評価の評価基準日(12月1日)に合わせて行う必要があり、特に数値目標を含めている評価項目については工夫を行っていく必要がある。